

28 天ぷら油の火災に注意しよう！

天ぷら油火災の発生するところや、正しい消火方法と間違っただけの消火方法を実際に見学・体験します。



学習の目標 火災の恐ろしさや消火器を備える必要性、してはいけない対処法を学習します。



時間軸

実施内容

対象人数★5～40人

1 事前準備

消防署に機材の準備や指導を要請します。屋外での実施となりますので、雨天時の対応についてあらかじめ決めておきます。

2 導入 (5分) ▶映像27

この展示は、家庭での火災の怖さについて、実際に炎を出して見てもらう体験学習であること、危険を伴うので消防職員の指示に従うこと、もし自宅でこうなってしまった場合はどうすればいいのか、などを考えながら見てもらうよう、趣旨を説明します。また、事前に屋内で説明ができる場合、映像27を見せてもよいでしょう。



発火までに時間がかかるので、油をある程度温めておきます

3 発火の展示 (5分)

加熱を行い、熱しすぎて煙がたくさん出たり、発火してしまう状況を見せます。



実際に火を見ると怖さがわかります

4 間違っただけの対処方法の展示 (5分)

発火した天ぷら油に対して、間違っただけの対処方法を展示します。



燃える油に水を注ぐと、より激しく燃えます

5 正しい消火方法の展示 (5分)

最後に正しい消火方法を展示します。

- ① 消火器で消火します。この場合、消火器の薬剤を直接ナベやフライパンに放射すると中の油が飛び散るので、やや離れた所から放射するか、壁などにあてて勢いを弱めてからナベの中心へ移動させて消火します。
- ② コンロの火を止め、ナベを覆うことができる大きさのふたをして空気をさえぎり、消火します。消火後すぐにふたを開けると再び燃え上がる恐れがあるので、油の温度が十分に下がるまでふたを開けないようにします。
- ③ 濡れたシーツや大きめのタオルを使ってゆっくりナベ全体を覆い、空気をさえぎって消火します。この時、炎でやけどをしたり、あわててナベをひっくり返したりしないように注意します。



正しい消火方法をしっかり学びます

●● 指導ポイント

- ① 展示は、必ず消防職員に実施を依頼します。また、危険を伴うため、子どもたちから目を離さないようにしてください。
- ② 正しい方法、悪い方法を実施します。正しい方法をしっかり覚えるようなまとめを実施してください。

●● 自主防災組織の関わり方

- ① 消火器具の取扱いの説明をしてもらいます。
- ② 事前準備に協力してもらいます。
- ③ 安全管理に協力してもらいます。

●● 準備するもの(目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 映像「天ぷら油火災」	1	映像27
<input type="checkbox"/> ナベ、コンロ、ガスボンベなど	各1	
<input type="checkbox"/> パソコン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> プロジェクター	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スクリーン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スピーカー	1	必要に応じて準備

●● 家庭への持ち帰り

展示を見たあとは、強く印象に残っているはずです。家に帰って見たことを話すように指導してください。

●● このメニューに関する+αの知識

- ① 天ぷら油が発火した場合に、マヨネーズを投入すれば油膜で窒息消火ができるとか、葉物野菜を投げ込んで油の温度を下げるなどという報道もありましたが、必ずしも有効に消火できるとは限らないばかりか、状況によってはかえって危険を招きかねないため、これらの消火方法は実施しないようにしましょう。また、家庭には、必ず消火器を備えておいてください。
- ② 天ぷら油からの発火による火災は、出火原因の上位を占めています。天ぷら油で調理をするときだけでなく、少しの時間でも絶対にコンロの火をつけたままその場を離れないようにしてください。

●● 注意事項

- ① このメニューは、消防職員に展示を依頼してください。
- ② 消防職員以外の方が実施する場合でも、事故を防ぐために、必ず消防職員の立ち会いをお願いします。
- ③ 実施中に大きな炎が発生する場合があります。子どもをはじめとして、十分な安全管理が必要です。